

---

---

がんリハビリテーション看護A

山田 忍 教授

Cancer Rehabilitation Nursing A

有本 幸恵 患者支援センター主査

2年次前期・がん看護専門看護師コース必修

坂野 元彦 非常勤講師

2単位・30時間

---

---

### 【概要・目標】

今後がん生存者は増加し、がんと共存する時代を迎える。がん患者の生活機能低下の予防や改善等、がん患者のセルフケアをサポートする看護師の役割は大きい。この役割を果たすためにチーム医療の中でがん患者のセルフ・マネジメント能力をサポートし、患者のQOLを高めるリハビリテーション看護を実践するための能力を修得する。

---

### 【授業内容・スケジュール】

1. がんのリハビリテーション医療の概要：患者の身体的・心理的・認知機能障害をアセスメントし、機能維持・回復、症状軽減、日常生活動作の自立化、QOLの向上について教授する（講義：坂野）。
  2. がんのリハビリテーション医療の現状と必要性について、教授する（講義：坂野）。
  3. がんのリハビリテーション医療におけるセルフ・マネジメントをサポートする意味について、人工肛門造設患者の症例を交えながら教授し、ディスカッションする（講義・演習：有本・山田）。
  4. 前回の講義から学生が臨床で関わった人工肛門造設患者への関わりを振り返り、継続したセルフ・マネジメントのサポートについてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。（演習：有本・山田）。
  5. がんのリハビリテーション医療におけるセルフ・マネジメントをサポートする意味について、血液疾患、移植を含めた患者・家族の症例を交えながら教授しディスカッションする（講義・演習：山田）。
  6. 前回の講義から学生が臨床で関わった血液疾患患者への関わりを振り返り、継続したセルフ・マネジメントのサポートについてプレゼンテーション、ディスカッションする。（演習：山田）。
  7. がんのリハビリテーション医療におけるセルフ・マネジメントをサポートする意味について、乳がん患者・家族の症例を交えながら教授しディスカッションする（講義・演習：山田）。
  8. 前回の講義から学生が臨床で関わった乳がん患者への関わりを振り返り、継続したセルフ・マネジメントのサポートについてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。（演習：山田）。
  9. 骨転移患者のリハビリテーション医療における、問題と課題および「International Classification of Functioning, Disability and Health : ICF」を活用したがんのリハビリテーション看護の目標立案について症例を用いながら教授する（講義：山田）。
  10. 転移性脊椎腫瘍から歩行困難となった症例を提示し、前回の授業で学んだICFを用いて患者の生活機能と障害、背景因子などから患者の状態を分析、アセスメントし、ディスカッションする。（演習：山田）。
  11. 前回の授業の最後に、患者・家族がリハビリテーション医療の技術を修得し在宅療養に向けての継続したリハビリテーション医療を行うためのケアに関するビデオを視聴する。そし
-

て、家族を支え、在宅療養に向けての継続したリハビリテーション医療を行うための、ケア計画について立案してくる。課題に関してプレゼンテーションを行い、ディスカッションする(演習：山田)。

12. 学生がエンド・オブ・ライフにある患者・家族に関わった経験においてがんのリハビリテーション医療の必要性について考えプレゼンテーションを行い、ディスカッションをする。(演習：山田)。
13. エンド・オブ・ライフにおけるがんリハビリテーション看護の意義について、多職種が連携し継続したリハビリテーションを行ったことで全人的苦痛を緩和できた症例を教授しディスカッションする(講義・演習：山田)。
14. 学生には事前に文献を提示し、継続したがんのリハビリテーション医療を行うために、多職種と連携したがんリハビリテーションにおけるがん看護専門看護師の役割について学習しプレゼンテーションを行い、ディスカッションする(山田・演習)。
15. 自施設のがんのリハビリテーション医療の現状と課題をまとめ、リハビリテーション専門職と連携したがんのリハビリテーション医療の継続、在宅療養に繋ぐセルフ・マネジメント能力のサポートについて事前学習しプレゼンテーションを行い、ディスカッションする(演習：山田)。

\*なお、4, 6, 8, 12において、臨床での患者・家族に関わった経験がない場合は、事前に症例を提示し、その事例をもとにがんのリハビリテーション医療におけるセルフ・マネジメントのサポートについてプレゼンテーション、ディスカッションを行う。

---

#### 【評価】

下記の事項について、総合的に判断して評価する。

1. 授業の中で事前に提示する課題、文献の読み込みとその理解状況（プレゼンテーションおよび意見交換） 60%
2. 出席状況と授業への取り組み 40%

---

#### 【テキスト】

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会編 がんのリハビリテーションガイドライン 金原出版 2013(第1版)

日本リハビリテーション研究会編 がんのリハビリテーションベストプラクティス 金原出版 2015(第1版)

大森まいこ 辻 哲也 高木辰哉編 骨転移の診療とリハビリテーション 医歯薬出版 2014(第1版)

配布資料

事前学習のための症例提示。

---

#### 【その他】

- ・がんプロ主催「がんリハビリテーション看護インテンシブコース」の受講をすることが望ましい(全8回：修了証発行)。

連絡先：yamada-s@wakayama-med.ac.jp (山田)